

# 言語教育を生態学的に考える

言語文化教育研究学会月例会 2016.7.9

宇都宮 裕章

# 素朴な疑問—多様性に関して

- なぜ教育研究では学習者の意味を問わないのか？
  - 「この教室にいるのは〇〇国からの留学生である」
  - 「非漢字圏学習者に対する漢字の指導法」
  - 「中級レベルの会話練習」
  - 「第3課修了、次は第4課です」
  - 「テイル形はすでに入っている」

# 素朴な疑問—多様性に関して

基準	分類名称
年齢	乳幼児・年少者(児童生徒)・成人
水準	初級者・中級者・上級者
所属	学生・非学生(生活者)
言語種	母語話者・第二言語学習者・外国語学習者
意識的行為	狭義学習者・自然習得者
法的資格	本国人・外国人

# 素朴な疑問—均衡性に関して

- なぜ教育研究では学びの場のバランスを無視するのか？
  - 教師から学習者への情報伝達
  - 一面的な評価方法
  - 授業運営の枠付け(導入→理解→展開・応用・練習→まとめ)
  - インフォメーションギャップ＋プロフィエンスギャップ

# 素朴な疑問—持続可能性に関して

- なぜ教育研究では普遍化・統一化・効率化を目指し、臨床化・多様化・複雑化を回避しようとするのか？
  - 矛盾を否定あるいは無視する
  - 無知を欠陥あるいは障害とみなす
  - 異なりを排除あるいは同化する